

# みちしるべ

第145号

人権・同和問題啓発広報  
 人権同和政策課  
 ☎ 22-7506  
 同和教育・啓発推進会議

## 平成30年度出雲市人権 作文・ポスターコンクール

市教育委員会では、次代を担う小中学生が学校生活や日常の家庭生活等の中で得た体験に基づいて、人権に関する自分の考えや思いを作文やポスターに表現することにより、人権尊重の重要性、必要性について理解を深めるとともに、豊かな人権感覚を身につけることを目的に人権作文・ポスターコンクールを毎年実施しています。

今年度も、人権作文の部では155点、人権ポスターの部では231点の作品が寄せられ、昨年11月20日に市役所で表彰式を行いました。特選・入選作品は、人権作文・ポスター集「ひまわり」や人権カレンダー等で紹介し、学校や家庭等での啓発活動に役立てます。今回は、特選・入選に選ばれた皆さんと作品の一部を紹介します。

(敬称略)

### 人権作文入賞者(特選・入選)

- 【小学校低学年の部】
- ★特選・塩冶小学校 2年 井上 榎奈香 「二人ぼっちの気もち」
  - ★入選・伊野小学校 2年 兼折 穂希 「ゆう気を出してよかった」
  - ★入選・伊野小学校 2年 安田 蒼 「友だちの気持ちを考えよう」
  - ★入選・中部小学校 2年 石橋 凛 「ゆう気もてたよ」



### 【小学校中学年の部】

- ★特選・大社小学校 3年 山根 一希 「みんなちがってみんないい」
- ★入選・塩冶小学校 4年 今岡 奏太 「世界少年野球大会で分かったこと」
- ★入選・神戸川小学校 4年 高橋 礼人 「感しやの気持ち」
- ★入選・窪田小学校 4年 園山 礼渚 「広げよう やさしさの実」

### 【小学校高学年の部】

- ★特選・中部小学校 5年 藤原 唯衣花 「言葉は通じなくても心は通じる」
- ★入選・神戸川小学校 6年 笠原 美陽 「私の右足」
- ★入選・平田小学校 6年 大國 千夏 「思いやりの心」
- ★入選・中部小学校 6年 小松原 晴輝 「その一言で」

### 【中学校の部】

- ★特選・第一中学校 1年 市成 優芽 「集団の中の自分」
- ★入選・平田中学校 3年 芥屋 真生 「真つすぐに生きる」
- ★入選・湖陵中学校 1年 南京 沙希 「『やめて』の一言」
- ★入選・大社中学校 3年 伊竹 律 「ぼくの姉」

### 人権ポスター入賞者(特選・入選)

- 【小学校3・4年生の部】
- ★特選・檜山小学校 3年 三宅 隼斗 「見つけたよ きみとぼくのいいところ」
  - ★入選・檜山小学校 4年 園田 衣愛 「やさしい言葉が人の心を笑顔にする」
  - ★入選・中部小学校 4年 樋廻 さゆり 「友達をわすれるな!」
- 【小学校5年生の部】
- ★特選・檜山小学校 5年 三宅 将太 「大きな気持ちで人を大切に」
  - ★入選・北陽小学校 5年 岡田 憲伸 「気をつけて人がきずつく言葉のぼう力」
  - ★入選・伊野小学校 5年 多久和 心 「後ろをふりかえったら友がいる」
- 【小学校6年生の部】
- ★特選・檜山小学校 6年 本郷 桜花 「みんなが楽しめるルールを作ろう」
  - ★入選・檜山小学校 6年 来間 紗希穂 「自分の思い 声に出して伝えよう」
  - ★入選・大社小学校 6年 梶谷 丞 「誰のせいですか?」
- 【中学生の部】
- ★特選・第二中学校 2年 荒木 華那 「暗闇に灯そう一筋の光を」
  - ★入選・湖陵中学校 3年 中尾 七奈子 「みんな同じ みんな仲間」
  - ★入選・大社中学校 1年 小川 沙月 「言葉は花束にもナイフにもなる」

言葉は通じなくて  
も心は通じる

中部小学校 5年

藤原唯衣花

今わたしのクラスには、ブラジルから来た友達がいます、わたしはポルトガル語が話せないし、その友達も日本語が話せないで、はじめはどうやって仲良くなればいいのか困りました。その時、わたしはマレーシアに住んでいた時のことを思い出しました。

わたしがマレーシアにいたのは、幼稚園年長から小学校二年生までの三年間です。引っこしてすぐは言葉が通じないことが心配だったけれど、周りのマレーシアの人達はいつもニコニコして話しかけてくれたり、親切にしてくれたりしました。言葉は分からなくても、笑顔や声でその人の気持ちが伝わってきて、わたしからも声をかけられるようになりました。マレーシアの人達が日本語のあいさつをしてくれるとうれしくて、もっと話をしてみたいくなりました。言葉

が通じなくても、見た目がちがっていても、自分から進んで声をかけたり、ニコニコしたりして、仲良くなりたい気持ちを伝えれば、その心は相手に通じていっかは仲良くなれるんだと思えました。マレーシアで出会った友達に教えてもらったことです。

日本人学校でマレーシアの学校との交流があった時、わたしの相手の女の子はトラブルがあつてずっと泣いていました。わたしは心配になって、「大じょうぶ？」と声をかけました。とんだり折り紙を折って見せたり、みんながしていることを教えてあげたりしていると、女の子は最後に笑ってくれたので、とてもいい気持ちになりました。日本語で話しかけていたけれど、友達になりたいというわたしの気持ちが伝わったのかなと思いました。

たとえ言葉が通じてても、本当の気持ちは伝わらないこともあると思います。誤解したり自分の思いこみだったり。言葉が通じてても通じなくても、相手をもっとよく知りたい、仲良くなりたいという気持ちで笑顔で接すれば時間はかかるかもしれないけれど、必ず心は通じるはずですよ。

だから、あきらめてはいけないと思います。今わたしのクラスにいる友達も、マレーシアで友達になった女の子と同じように不安なことがたくさんあるのかもしれない。国がちがうと、生活やルールにもちがうところがあると思います。わたしは、自分してもらってうれしかったように、友達にたくさん声をかけたり、いっしょに笑い合ったりして、少しでも不安な気持ちを減らしてあげたいと思います。ブラジルで使われているポルトガル語も少しずつ覚えていきたいです。そして、わたしも、友達から仲良くなりたいと思ってもらえるようなやさしい心をもつてかわりたいです。生まれた国や言葉に関係なく、誰でも自分らしく過ごすことができ、友達と言葉にたよらない心の通じ合いがあるクラスにしていきたいです。

「人権ポスターの部 特選作品」



檜山小学校 3年 三宅 隼斗



檜山小学校 5年 三宅 将太



檜山小学校 6年 本郷 桜花



第二中学校 2年 荒木 華那

「おたずね」 学校教育課 人権同和政策課 ☎2162224 ☎227506